

第2期第7回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2014年10月20日（月）14:00～16:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：石川清（会長）、岩本陽児、太田美帆、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、
富川尚子、西原要四郎、花田英樹、布沢保孝、柳沼恵一、吉川雅子
以上 12名

事務局：稲田センター長、外川担当課長、松田事業係長、
村田担当係長、小林主任、中村主事（記録）

〔欠席者〕小川久江（副会長）、菅谷万里子、二見秀太郎、

〔傍聴人〕2人

〔資 料〕・第7回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・新たな事業評価の仕組みの検討について（資料1-①）
- ・生涯学習センター運営協議会における事業評価のながれ（現状）（資料1-②）
- ・事業評価シートについての提出意見（資料1-③）
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料2～資料9
- ・2014年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見
- ・東京都公民館連絡協議会委員部会第2回研修会について 資料10
- ・2014年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～16

<協議事項>

1、2014年度生涯学習センター事業の企画について

（1）まちコレ2014

事務局：町田デザイン専門学校等の市内の学生と109MACHIDAの共催イベントを、12月21日に行う。これから実行委員会のなかで討議していくので具体的な内容は未定だが、目的としては若年層が自らの興味や特技などを基に、企画や提案、運営に携わる講座やイベントなどを実施することである。事前提出意見のなかで「若年女性の生活課題とは何を指すのか」という質問をいただいているが、例えば来場した女子学生たちが内面で抱えているかもしれない消費問題、男女関係の問題等の相談先をパネル展示する。また、ファッションショーは事前申込制とはしない。

（意見・質問）

委 員：出演者の参加が事前申込なしということか。

事務局：観覧について事前申込をしないという意味である。出演者は事前に実行委員会で決定する。

委 員：出演者はどれくらいいるか。

事務局：参加する学校にもよるが、昨年度は100名弱だった。

委 員：どのくらいの学校が参加したのか。

事務局：昨年度は町田デザイン専門学校、桜美林大学や大学生のダンスサークル等、3、4団体程度が参加した。

委 員：自分達で服を作り、出演するのか。

事務局：生地から作る団体もあれば、既製品をアレンジする団体もあり、程度は様々だが、基本的には自分達で作った衣装で出演する。

委 員：講師の方の経歴はどのようなものか。

事務局：市民ホール等で舞台照明をしたり、学生向けのイベントの演出もされている方である。

委員：学生が主体となるイベントは貴重で、大々的に行ったほうが良いと考えている。タウンニュース等のフリーペーパーに掲載するなど、広報活動は積極的に行っていただきたい。

事務局：昨年度は、行政では足を踏み入れにくい居酒屋へ赴いて、学生達が周知活動を行った。フリーペーパーに掲載することも方法のひとつだと思うので、学生ならではの周知方法を今後検討していきたい。

(2) クリスマスコンサート「冬の夜の贈り物 ～アリアとクリスマスソングのタベ～」

事務局：12月23日に行うクリスマスコンサートで、タイトルを「冬の夜の物語 ～オペラアリアとクリスマスソングのタベ～」に変更した。選曲や具体的な内容については現在講師の方と調整中だが、クリスマスにちなんだオペラコンサートを行う予定である。

(意見・質問)

会長：出演者は例年同じなのか。

事務局：昨年度もオペラコンサートを行ったが、出演者は昨年度とは違う方達で、以前からコンサート事業にご協力いただいている方の紹介で依頼した。

(3) 昭和薬科大学・町田市生涯学習センター共催講演会「感染症の最前線」

事務局：例年行っている昭和薬科大学との共催事業で、大学の専門的知識を参加者の皆さんにご理解いただき、生活に役立つ知識を習得していただくために実施する。

(意見・質問)

委員：現在エボラ出血熱についての報道が広がっており、参加者の興味関心もかなりあると思うので、是非講座の中で広く取り上げていただきたい。

2、事業評価について

(1) 敬老の日企画「みんなで歌おう♪ファミリーコンサート」

事務局：敬老の日に行ったコンサートで、三世代の親子が集えることを目的としていたが、当日は子どもの参加はなく、参加者138名の殆どが高齢者であった。日本の歌を題材とし、青春歌謡や叙情歌をみんなで歌った。今後の課題としては、子どもから大人まで、幅広く集客できるようなコンサートを行えるよう、工夫していきたい。そういった意味では、事前に富川委員からもご意見をいただいているが、ファミリー優先枠等も検討していきたい。

(意見・質問)

会長：実際には何か工夫がなされたのか。

事務局：ホール附室の利用が可能であることを広報に掲載した、

委員：町田ゆかりの曲は「町田市歌」のほかにもあるのか。

事務局：「花嫁人形」という童謡がある。作詞をされている落谷虹児氏が一時期、町田市にお住まいだったということもあり、以前文学館でも企画展を行った。

委員：ファミリーコンサートにする必要があったのか。

事務局：敬老の日ということで三世代揃って参加していただくことを目的とした。

委員：先日町田市民合唱祭があり、出演した合唱団のなかにはファミリーではなく、お父さん、お母さんも子どももバラバラに参加しているところもあった。そのような場合もあるので、今回のコンサートについても家族で限定するのではなく、「子どもも大人も参加できる」という募集をすればもっと集客が図れるのではないかと。例えば、小中学校の合唱サークルに出演してもらえば、その親族は来場するので、そういった策を立てておくことで世代間交流が実現しやすいのではないかと。

委員：このコンサートだけに限らず、三世代が交流できる事業は非常に難しい。世代間交流をするのであれば、他世代同士と一緒に何かをする等、きちんと区別しなければ漠然としてしまう。

委員：現代の子ども達は古い童謡が歌えない子が増えており、三世代が歌える歌は少なくなってきている。日本の伝統的な歌はしっかりと伝えていきたいので、このようなイベントを是非強化していただきたい。

(2) 世代を超えて夢を語ろう ～対談とライブ～

事務局：2014年2月に実施を予定していたが、大雪で延期となってしまったため、今回再び実施するものである。町田市出身の男性6人組ユニット「Brand New Vive」と、市内で活動する音楽団体「今井谷戸プラス」が出演した。まずは今井谷戸プラスのライブ、次に今井谷戸プラスとBrand New Viveの対談、最後にBrand New Viveによるライブの三部構成で行った。対談については町田市生涯学習コーディネーターの会にご協力をいただいた。市内外への広報活動を活発に行った結果、当日参加者は137名となった。イベントダイヤルで受け付け、65組の申込となった。内訳としては30代までが31組、40、50代が19組、60、70代が15組と、幅広い年代の方に参加いただいた。Brand New Viveのメジャーデビューまでの苦労話をし、若い世代の想いを共有することができた。また、参加者のうち市内在住者が31組、市外が34組で、市外の方へのシティセールスができたが、一方で市内在住者の申込を優先させる工夫も必要であったのではないかと感じている。

(意見・質問)

会長：世代間交流はどのように成功したのか。

事務局：若者の考えや活動の実績、苦労話を理解していただいたという点で、世代を超えて交流ができたと感じている。

委員：市外の方も含め若者が多いイベントは生涯学習センターのなかでも珍しいと思う。ミュージシャンの方達がフェイスブックやツイッター等のSNSで告知をした可能性も考えられるので、若者達がどのようにしてこのイベントを知ったのか調べるのが、今後生涯学習センターを若者へ周知していく上で大切なのではないか。

事務局：Brand New Viveの公式HPでもこのイベントの情報は掲載した。今回の参加者で生涯学習センターを初めて利用した方が91%だったこともあり、ファンの方がHPの情報を見て申し込んだ可能性が高い。

委員：今後講座やイベントを行う際も、講師の方にSNSで宣伝してもらうのもひとつの方法ではないか。

事務局：今回はアンケートの提出が参加者の半分程度と少なかったが、そのなかで9割の方が初めての利用、4回目以上の方が1割となった。

委員：評価シート上の「事業内容」の評価で、「町田市民に制限してもっと町田市の参加者を増やしたほうが良かった」とあるが、イベントを通じて町田の魅力を知り、将来的に町田市民になる可能性もあるので、市民に制限しなくてもよいのではないか。

委員：改善点のなかで、「対談での今井谷戸プラスの出番が少なかった」とあるが、会話のチャンスは司会の進行次第で変えられたのか。

事務局：そうだと思うるので、もう少しこちらから話題を誘導できればよかった。

委員：以前も話題に出たと思うが、若者が集まる中心地であるにもかかわらず、生涯学習センターに若者が集まらない問題もあったため、このようなイベントは非常に良いチャンスだと思う。今後続けていく上で、生涯学習センターとしてもっとできることがあるのではないか。

事務局：まずは単発のイベントで若者を集めるために、数年前から若者向け事業に取り組んでいるが、ただ来てもらえれば良いというわけではない。たださえ学校で学習をしている世代なので、講座を通じて学ぶのではなく、学んだ成果をどのように活かせるのかという企画を考えている。また、それぞれの若者向け事業は単発事業が多く、点になっており、線にはなっていない。個々の事業をどのように関連付けるかが今後の課題である。

(3) 平和祈念展 平和映画上映会「アオギリにたくして」

事務局：市内にお住まいの中村里美氏がプロデュースし、薬師池公園が撮影場所として使われている作品の上映を行った。

(4) 平和祈念展 平和映画上映会 ドキュメンタリー編

事務局：8月5日及び8月8日に、ドキュメンタリー映画「人間をかえせ」「ヒロシマナガサキ」の上映を行った。

(5) 平和祈念展 語りつぐ平和への想い

事務局：市内にお住まいの被爆者の体験談をお話しいただいた。8月3日、8月9日に実施した。事業プロセス欄の②、事業成果欄の①の後半についてミスがあり、昨年度実施した内容がそのままになってしまっているので、削除していただきたい。

((3)～(5)についての意見・質問)

委員：評価の仕方について、昨年度のものを記載したままということは、シートを使いまわしているという印象をうける。単年度毎に評価をし、その反省を書いているというよりは前年度のものを日付だけ変えているということか。

委員：どれも非常に衝撃的なシーンが多い作品だと思うが、解説をつければより理解しやすくなるのではないか。

事務局：上映の前後で解説することもひとつの方法だと思う。

委員：前回から2回に分けて平和祈念展の事業評価が議題に出されたが、可能であれば、同じ事業は1回の議題にまとめたほうが、事業の全体像が把握しやすい。

事務局：今後はそのようにする。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1～16までございますので、資料を確認していただきたい。

事務局：前回出た意見を踏まえ、「生涯学習センター運営協議会意見」欄には記入者名を入れた。

(2) センター長報告

9月議会が終わり、教育委員の岡田委員、井関委員の2名が10月27日付で退任される。それに伴い新たに森山委員、八並委員が、議会の同意を得て10月28日付で就任される。森山委員は玉川大学の教授で、八並委員はPTAや学校支援ボランティアで活動されている方である。

また、10月13日に行われたNHK全国音楽コンクールで、全国1、214校の中から選ばれた11校が出場し、鶴川第二中学校が金賞を受賞した。鶴川第二中学校は2011年度に優良賞、2012年度及び2013年度にも銅賞を受賞している。その他にも、別のコンクールで忠生中学校、堺中学校、南成瀬中学校、南中学校等も入賞している。

また、生涯学習センターまつりが10月24日から26日までの3日間で行われる。委員の皆様にも是非お立ち寄りいただきたい。

東京都では、11月3日の文化の日から1週間を文化財ウィークとして、文化財普及事業を例年行っている。町田市では関連事業として、10月20日から11月7日まで、市庁舎1階のイベントスタジオにおいて、町田市指定文化財の展示を行っている。胴体部分があれば国宝級の土偶の頭部分などが展示されているので、関係者の方には是非PRしていただきたい。

10月18日から12月21日まで、文学館で「尾辻克彦×赤瀬川原平 ー文学と美術の多面体ー」展を行っている。

(3) 東京都公民館連絡協議会について

委員：東京都公民館連絡協議会第2回研修会が11月22日に行われる。講師の荻野亮吾氏は、コミュニティと地域活動への住民参加に対する活動をされている方で、大分市や飯田市などで公民館や学校を中心として、住民ネットワークを構築されている。第2回研修会でもそのようなお話をしていただき、年間テーマの「公民館の活性化」に繋げていく。

また、第36回全国公民館研究集会在が、10月16日、17日に埼玉県熊谷会館で行われ、運営協議会からは柳沼委員、二見委員が参加した。この研究集会是毎年全国7ブロック持ち回

りで開催されており、今回は第55回関東甲信越静公民館研究大会との共同開催となった。初日は全体会で、オープニング、来賓挨拶のあと、森村誠一氏の記念講演を行った。文部科学省の施策説明では、現在公民館が全国的に減少しており、職員も不足している中で、非常勤職員が増加している現状や、利用者も微増しておりうまくバランスがとれていない。今後は社会教育を、学校や家庭だけでなく、地域活動やまちづくり、高齢者福祉、場合によってはNPOや企業等とも関係づけながら発展していかなければいけないというお話があった。

2日目は分科会に分かれ、柳沼委員は「寄り合い支えあう公民館」、二見委員は「まなびまなびあう公民館」に参加した。その他は「安心できる防災拠点の公民館」、「高齢者が生きる公民館」、「伝統・文化を継承する公民館」の、5つの分科会に分かれた。参加した「寄り合い支えあう公民館」は、副題が「“共助”による地域社会の活性化」ということで、鶴ヶ島市の大橋公民館が事例発表を行った。鶴ヶ島市では、2年ほど前から公民館を中心とした地域の支えあいの協議会の組織化をしており、防災意識の向上化という観点から、学習会やイベントを進めていたが、あまりうまくいっていなかった。もう少し組織的に地域の方が参加できるような仕組みづくりをしていくために、町内会自治会、民生委員へ働きかけ、大橋公民館内に「サザン地域支え合い協議会」の事務所を設置し、その内に、「福祉支え委員会」、「防災・防犯委員会」、「地域絆づくり委員会」、「組織強化委員会」という組織を立ち上げ、住民中心で公民館がそれを支えていく形式で進めている。住民の生活パターンはいくつかあるが、それらをうまく結び付けていく仕組みとして、町内会自治会を中心に参加いただいている。公民館が地域の中に入っていくことにより、地域問題の解決には繋がるが、将来の問題として、公民館の社会教育施設としてのあり方が揺らぐ可能性もある。実際に鶴ヶ島市も2014年度からは公民館という名称ではなく、「地域まちづくりセンター」として運用していくということで、従来公民館を利用してきた方とどう結びついていくのかという課題がある。公民館が地域と関わっていくことにより、メリットもあるが新たな課題も生まれると感じた。

なお、2015年度の関東甲信越静研究集会は、2015年11月14日、東京都小平市で開催される。

<事業評価について>

会 長：評価シートの改善について議論を進めているところであるが、評価シートを変更する前に、事業全体として、運営協議会がどこまですべきかを再確認しながら進めていきたい。

委 員：委員の皆さんにご意見を出していただいているが、シートの書き方や項目と関連し、まずは運営協議会で評価を行う意味を考え、その目的が反映されたシートにしたい。さらに、企画時はシートを事業実施のどれくらい前に提出するか、評価と事業実施のサイクルも再検討したい。現状では企画段階で運営協議会にシートが提出された時点では、意見を出しても実施まで期間がないため、反映するのは難しい。評価シートの個別の項目のみを議論してもなかなか話が進まない。評価の目的、サイクル、具体的なシートの項目の3つについて、年間スケジュールを含め議論を進めたい。

事務局：資料1-①については大まかなスケジュールを提示させていただいた。検討内容としては、事業評価の仕組みについてと、シートの項目についての2段階あるため、それぞれについて議論いただきたい。今回は、現状の評価の流れや問題点、会議内の時間配分について確認していただく。11月、12月で評価工程の見直し、1月、2月で評価シートの検討、3月には新たな事業評価の仕組みを決定し、それに基づき運営協議会を実施していきたい。

続いて資料1-②は、事業評価の実施サイクルについてお示しした。まず、事業の企画については遅くとも2~3ヶ月前に行うようにしている。運営協議会開催3週間前に議題の決定及び資料の作成をし、1週間前に開催通知とともに資料を委員の皆様へ送付している。議題に対するご意見があれば事前にいただき、事務局で取りまとめた後当日資料として配布している。当日は企画内容の協議、事業評価をいただき、各担当委員が運営協議会意見をとりまとめ、記入いただく。最後にセンター長が総合評価を行い、次回の運営協議会で最終報告をして次回の企画に活かしていくという流れになっている。

資料1-③については、これまで出された意見をまとめたものである。

- 委員：企画に対しての意見が反映されるのかどうか、この資料ではわからない。
- 事務局：いただいたご意見を反映できるところは反映しているが、この資料では省略させていただいた。サイクルとしてはこの表の中に入ってくる。
- 会長：評価の件数は変わらないが、協議会の半分を1つのテーマに対する議論の場に使いたい。そのため、事前にご意見をいただいているが、それも含め省略化しながら今後の運営協議会のあり方について議論していきたい。運営協議会のあり方を踏まえ、事業評価シートも変更すべきである。
- 委員：評価シートとして、現在そのままA3用紙1枚のサイズが望ましいと考える。しかし、次年度に活かすためにはもっと詳細なデータがほしいので、シートとは別にデータベースのようなものがあれば良いのではないかと。民間や様々な団体が講座・講演会を行っているなかで、生涯学習センターを情報発信の場として活かしていくためにも、使いやすいデータベースを作る必要がある。シート変更にあたっては、我々が事業評価する際何が知りたいのかが重要である。知りたい項目をリストアップし、どこまでデータベース化できるのかを考えていきたい。
- 委員：大量の情報を蓄積しても、使いこなすのは難しい。データ化することにより、職員の作業量も増える。
- 委員：今すぐ使いこなせなくても良い。現状では委員の質問に対し、データを取っていないという回答がしばしばあるので、将来的に活用させるため、どのような情報が知りたいのかをリストアップしておくのも良いと思う。
- 委員：データベース化するのには非常に有用だと思うが、そのためにはまず情報収集のフォーマットを検討する必要がある。現在行っている唯一の手段はアンケートだが、そこでどれだけの情報が収集できるかが重要である。アンケートを活用したデータの蓄積ができれば良い。
- 事務局：アンケートについては以前から行っており、膨大な情報量を持っている。ただしそれを活かしてきいていないのは事実である。アンケートの内容についても各担当者で検討しているが、それが次年度にどのように活かされているかが不明確な部分もある。事業評価のサイクルとしてアンケートの内容を再検討していきたい。
- 委員：集まったアンケートをデータ入力するボランティアを募集しても良いと思う。
- 委員：評価シート上にはアンケートの詳細は掲載されないが、別のフォーマットで集計結果はまとめていないのか。
- 事務局：アンケート結果はすべてまとめているが、フォーマットにはなっていない。
- 会長：集計しているのであれば、フォーマットをつくり、そこに落とし込めないか。
- 事務局：設問に大きな違いはないので、可能ではある。ただし現在のアンケートの内容では深く分析できないため、設問自体を再検討する必要がある。
- 委員：各事業でアンケート結果は集約されていると思うが、個々の事業ではなく、様々な事業で集まったデータをまとめれば、どの世代がどの時間帯に参加しやすいのか等、事業全体に活用できるデータがとれるのではないかと。
- 委員：「この講座を何で知りましたか」という設問はされていると思うが、例えば「講座を探す際に何で調べるか」という設問を追加すれば、どの年代の方がどのような媒体を通じて情報を得ているのかがわかり、広報活動にも活かせると思う。
- 会長：とにかく問題としては事業全体を見ることが重要である。現在は年12回開催しているが、予算が削減されていくなか、今後これまでのように毎月開催できるかわからないことも踏まえ、事務の省略化を考えなければならない。そのために事業評価を効率化し、よりよい会議にしていきたい。また、事務局から新たに評価シートのたたき台を作成していただいた。前回出された意見をもとに、A3用紙1枚で企画は左半分、実施後の評価は右半分で分けた。「事業番号」や「取組」欄は、生涯学習推進計画のなかの目的等に照らし合わせることで、事業の目的が明確になるようにした。まずは評価シートの見直しについて年間スケジュールが出されたので、将来計画も含め評価シート改善に向けて議論していきたい。
- 委員：事業評価が運営協議会の役割のひとつであると考え、企画段階では運営協議会としては意見せず、評価時に次年度へ向けて意見していくのも良いのではないかと。すでに職員が企画し、実施に向けて動いている段階だと思うので、企画時での議論はしないというのはどうか。

会 長：その件については実は事前打ち合わせでも話題が出た。それもひとつの方法だと考える。

委 員：企画段階で時間をかけて議論をしても反映は難しいと思うが、最低限の議論は必要だと思う。

事務局：事務局としてはシートをどうするかというよりも、運営協議会として議論していただく議題を決め、個々の事業よりも評価シートを資料に、生涯学習センターとしてすべき事をもう少し大きなテーマで議論していただきたい。評価シートについては、職員が事業を実施する際活用するものと考えている。ただし、より適正に事業を実施できるよう、運営協議会としての意見をいただいている。大卒の議論のために、個々の事業評価を積み重ねていくことも必要と思うが、事業全体の議論も念頭に置きながら進めていただきたい。

会 長：目的が定められ、その事業が何を担っているかが明確になった評価シートであれば、個々の事業評価をしていても事業全体が見えてくる。

事務局：例えば市民大学事業について、生涯学習センターとして、他の事業との関連性や位置づけなど、事業方針は個々の事業評価ではなかなか見えてこない。2014年度は事業評価シートについて議論していただくが、次年度に向けてその辺も含め議論していただきたい。

<その他>

1、2015年2月・3月の開催日程について

事務局：2015年2月・3月の運営協議会開催日程について、ご都合のつかない方もいると思うが、議題や部屋の空き状況の関係で、2月21日土曜日10時から学習室2、3月22日日曜日10時から学習室2とさせていただきます。なお、今回は11月29日10時から、視聴覚室で行う。